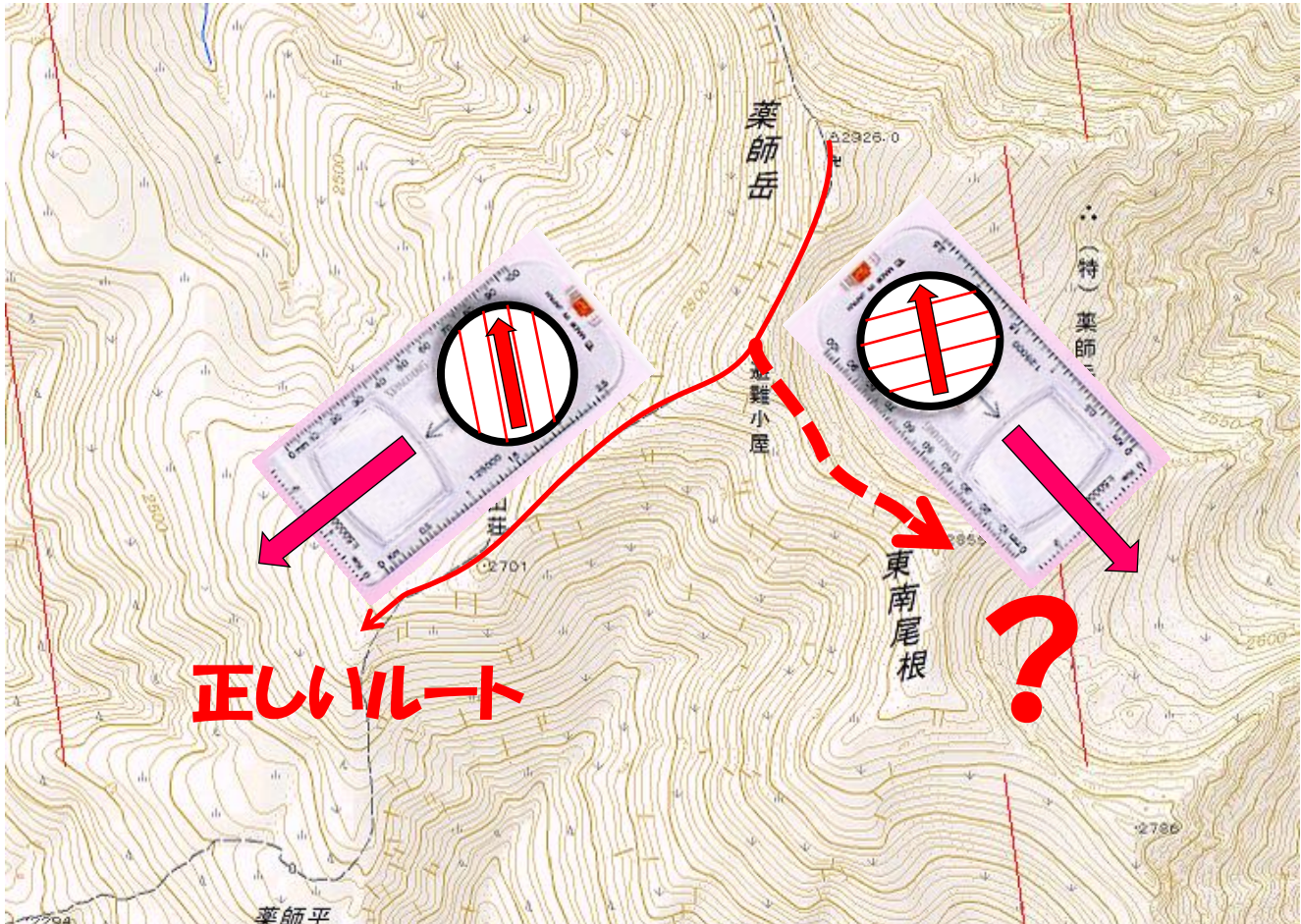


愛知大学山岳部薬師岳遭難

昭和38年1月、薬師岳(富山県)頂上を目指した。しかし、二つ玉低気圧の影響で猛吹雪となり、山頂を目前にして登頂断念、下山途中ルート进行を誤り(東南尾根に迷いこんだ)13人全員が遭難死亡した。この時、パーティの中に地図とコンパスを携行している者は誰一人いなかった。



解説

薬師岳から避難小屋、薬師岳山荘への尾根は比較的なだからで、猛吹雪の中では西からの風により東にルートを取り易いのは、想像に難しくない。しかし、コンパスの使い方を理解していれば、迷い道は防げたのかもしれない。

上記のコンパスに注目してほしい。①磁北線と②リングの矢印と③磁針の3つが正しく一致すれば、正しい進行方向を示してくれる。ところが、東南尾根の方向は、②リングの矢印と③磁針がズれていることが分かる。このズレこそが、道に迷っている証拠なのだ。

最近、私は、スマホのGPS機能を利用している。猛吹雪でどこまでスマホが利用できるかわからないが有効な方法と考えている。でも、同じ境遇になったら、地図とコンパスで進行方向を決めてから進むだろう。スマホありきの行動ではなく、あくまでも補助的な道具として利用しないと決めている。

(平成26年度冬合宿:蝶ヶ岳でもスマホと地図を併用し楽しむことができた。現在位置を教えてください先生がいる感じだった。)